

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171600299		
法人名	社会福祉法人 江差福祉会		
事業所名	シルバーハウス 第2ケープ赤石		
所在地	爾志郡乙部町字元和84-8		
自己評価作成日	平成29年 6月22日	評価結果市町村受理日	平成29年8月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

恵まれた自然環境の中での屋外食事会、お茶会、流しソーメン等々の実施。  
利用者様一人一人の個性を理解する事に努め、それぞれの個性に合った支援、援助、介護を目標としております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0171600299-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0171600299-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年7月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成16年に開設今年14年目となった「シルバーハウス 第2ケープ赤石」は、北海道西部の日本海に面した人口3,900人余りの町に立地している。運営法人は松山管内に於いて知的障がい者及び高齢者等の福祉全般に多種多様な事業を展開している。以前はペンションとして使用していた建物を改修した「シルバーハウス ケープ赤石」が隣接しており、行事や会議などは合同で行い常に連携を取り、利用者同士の交流も盛んに行われている。当事業所は平屋造りのバリアフリーで明るく解放感もあり、それぞれ利用者は日々ゆったりと過ごせるように工夫されている。又、事業所の周辺には「いたや楓」の木々が多く茂り鳥の鳴き声や蝉の声なども聞かれ、庭には満開の紫陽花の花が咲きそろう自然が一杯の恵まれた環境の中にある。周辺には元和台公園の広大な芝生が敷き詰められており、日本海を見渡す事が出来る環境の中で散歩や公園内のレストランでの食事を楽しみながら日々の生活を送っている。管理者と職員は、利用者が一人ひとり安心して暮らし続ける事が出来るよう「人と人とのふれあいを大切に、家族の一員として普通に暮らす」という理念を基に日々のケアを実践している。利用者は尊厳のあるそして穏やかな生活を送っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個人のプライバシーを念頭に置き、地域の一員としてのグループホームという事を忘れず、地域の交流を積極的に行こうを理念とし、その実践に取り組んでいる。	事業所内に理念を掲示している。管理者と職員は地域密着型サービスの意義を確認し「人と人とのふれあいを大切に、家族の一員として普通に暮らす」という理念を共有しながら日々の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事に招待したり、近所の方々と食事を囲む等して交流を深めている。また、自治会主催の行事に参加をしている。	事業所として自治会には加入し協力体制を作っている。事業所の行事の開催時は地域の住民に声かけをしているが、高齢化が進み地域住民の方々の参加が難しくなっている。	今後も町内会・自治会に呼びかけを継続し、学校とのつながりを持つ等、地域の中でケアの拠点として取り組んでいくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	乙部町地域包括支援センター等と協力し、講演や認知症家族会の話し合い等に参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族の出席が少ない。	以前からの参加メンバーは高齢または体調が悪く参加が困難となり開催出来ていない。	事業所の行事に合わせて町内に暮らしている家族に呼びかけ参加してもらい、又、役場や社協にも働きかけ、まずは開催することを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	乙部町ケア会議等に出席し連携を図っている。	管理者は町の関係機関のケア会議には出席している。更新時の申請、または変更などの書類関係は勿論のこと家族の要望なども代弁者となって町の担当者へ伝える等、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本人の意図に合っていない行為については納得が得られるよう説明しています。また、法定基準を念頭に常に安心を得られるよう対応しています。	身体拘束禁止のマニュアルは整備してある。管理者と職員は勉強会を行い共通認識を持ち、日々のケアに活かしている。日常のケアの中で少しでも気付きがあった時にはその都度職員同士で注意しあい、ケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	集団生活の中での“出来事”に関してケア会議等を開き、“望ましい接し方”“虐待”の捉え方について共通認識を得るように努めている。職員が同一視点にある事は虐待防止に役立っている。		

シルバーハウス 第2ケープ赤石

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に後見人制度を利用しなければならない入居者が無く、活用はされていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	「入居者の権利」等を渡し書面、口頭で十分な説明を行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来所時に報告、情報の提供を行い合わせて意見を聞いている。	家族の来所時には話し易い雰囲気づくりに留意している。家族から出された意見や要望はその都度ミーティングなどで話し合い検討し、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員はケア会議に参加することで、入居者の「現実」を共有理解し、ケアプランや運営に反映させている。	管理者はミーティングや勉強会などの開催時には、常に利用者と多く関わりを持っている職員の気付きやアイデアを取り入れ共有し、運営に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人としては、様々な事業の展開を行ってはいないものの、当施設の環境整備等には至っていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	道南エリアで開催される研修会に参加できるよう職員の配置に努め、更に申し送り等の時間に研修内容の伝達、記録の回覧により情報の共有に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	檜山エリヤのケアマネージャーの連絡会議に参加し他施設の情報をキャッチしつつ、取り組みの可能な事柄を利用している(記録の方法等)。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望、欲求を十分に聴くように努め、本人が安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の相談を聴き、不安なく入居し生活できるよう努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と面談し必要としている支援内容の把握に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の“得意”な事柄をキャッチし生活の場で一緒に出来る事を行ったり、家族同様に付き合うように努めている。「生活の知恵(生活習慣)」から学ぶ事が有り、職員の人生観にも反映される事が多い。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族(近所の方々)訪問を行う等して家族が本人をどのようにして支えているかを学び取ることに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の近所付き合い、手紙による交流を深められるように同行したり、手紙の上書き、投函を助けたりしている。	友人や自治会の人達の訪問はある。病院受診時待合室での出会いもあり、継続的な交流は出来ている。年賀状なども以前からの関係が継続出来る様に職員は支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の個性を尊重し、良い関係作りができるよう支援したり助言したりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前にはフォローも出来ていたが、この頃では、中々フォローまで至っていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の暮らし方を把握し、努めて希望に沿うようにしている。困難な事柄は職員が説明し代行できるものは代行している。	管理者と職員は利用者一人ひとりの細かな感情の表出を見逃さずに思いの意向の把握に努めている。意思疎通が困難な場合は家族から情報を得て支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めてはいるものの、情報自体が乏しい状況も有り思う様には行っていない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の体調の変化に配慮しながらケアに努めている。異常を認められる「現象」には適切に処理できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員、ケア会議等本人の現状に合ったケアプランの作成に努めている。生活の変化が著しい時には介護保険の再申請を行い現状に合ったケアプランの作成に努めている。	本人と家族の意向を取り入れ、又、管理者と職員は日々のケアの中で気付きや工夫を反映した介護計画を作成している。状態の変化時にはアセスメントとモニタリングを繰り返し現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の経過記録により本人の生活全体を把握し全員が情報を共有しつつケアに当たっている。計画の変更時はカンファレンスを開き、ケアの不統一を解消している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	心掛けてはいるものの、中々実現出来ていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の視察、警察、消防、文化協会等の協力を得ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日常のバイタルを確認し定期受診時に主治医に情報提供を行なっている。入居前の病院での受診を原則としており、馴染みの関係を築いている。	協力医である町の病院の他に利用者と家族の希望の病院受診もある。受診時には日頃のバイタル・体重などの報告をし、常に連携を図り関係を築いている。受診後は家族に報告をしている。	

シルバーハウス 第2ケープ赤石

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所として看護職の採用はしていない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院時は情報を速やかに報告し、入居者が安定した気持ちで療養できるよう支援している。また、洗濯物の始末等も施設で行なっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の時点では一般状況の観察を行なうと共に医療側に状況報告を行なっている。一定の方針は共有しているが、最終は本人にとっての最善を考えケースバイケースでの対処となる。	重度化や終末期についてのマニュアルはあり、入居時に内容の説明をして同意を得ている。本人と家族の意向を踏まえ随時意志の確認をしながら取り組んでいる。緊急時のマニュアルもあり管理者と職員は共有し体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日常のケアの中で急変を察知する能力を養っている。行政関係、団体で行なう研修会に参加する事で職員のスキルの向上に努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	特に隣家には夜間災害時の協力をお願いしている。	春には消防署の協力のもと通報・消火器の使い方などの訓練は行った。秋には利用者を含めて総合的な避難訓練を行う予定になっている。備蓄については本部で一括管理している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日の個人記録を正確に明解に記録している。	利用者と職員は一人ひとりの個々の人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をし、利用者のその人らしい尊厳のある姿を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人との対話に努め“今”何をして貰いたいかな言葉やサイン等を把握するよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れにより動く事が多く、個人よりは集団で行なう事が無いように思われる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理・美容については、本人の馴染みの店で行なうように努めている。		

シルバーハウス 第2ケープ赤石

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は季節の食材を利用するなどの工夫をしている。食後の片付けは本人の機能に合わせ職員と一緒にこなしている。	レストランで合同の食事会を行ったり、誕生日の利用者の希望を聞き外食する等、食事を楽しんでいる。家族から届いた野菜や魚などの頂き物もあり、後片付けも職員と一緒に一日の活動の一環になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	少食の人には経腸栄養剤(エンシュア・リキット)を使用し、栄養バランスの確保に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔衛生に努めることにより、肺炎等の合併症の予防に努めています。口腔ケアを簡単に済ます人には隣りに居て励ましを行ったり、洗口液を使用して貰っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の生活習慣の把握に努めながら、失敗は“生活の流れ”の一部と捉えプライバシーへの配慮を行いつつ速やかな交換を行なっています。	管理者と職員は一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者の様子を察知しさりげなく声かけして誘導し支援している。夜間のみパッドやポータブルトイレの使用もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬物により予防している人もあり、更には食品水分等充分体調を整えられるよう配慮しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は大部分施設側で決めている。入浴順番は入居者の体調を考慮しつつ希望を取り入れて行なっています。	週2回の入浴を行っている。入浴中は職員との会話や歌などを楽しみゆっくと入浴出来る様に取り組んでいる。入浴を拒む利用者には時間や曜日を変えるなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息等は本人の体調を優先している。本人の動きに合わせて職員が支援するよう心掛けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は常に個人の使用している“薬”の変化に着目し使用方法に目配りしている。更には、副作用に配慮しつつ支援を行なっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設内での生活に留まらず要望により買物、散歩等に職員と一緒に掛かっています。大部分が地域の入居者である為、「世間話し」に花が咲く事があります。		

シルバーハウス 第2ケープ赤石

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節によっては、散歩や花壇の世話等率先して行なっている。介助の必要な方には職員が同伴して行ないます。	天気の良い時にはお弁当持参で事業所前の公園まで外出し、日光浴を楽しんでいる。職員と一緒に花壇に水やりや草取りなど外気に触れる機会を作り、気持ちよく毎日が過ごせるように工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物等の可能な入居者は、職員が同伴して買物を楽しんでいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が必要な時は家族への電話連絡をしている。手紙も投函等職員が行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の前で調理をし生活を感じて頂けるよう工夫している。	共有のスペースは広々とした空間の中に一人掛けのソファや三人掛けのソファ、食卓テーブルなどが配置されており利用者は好みの場所に座りゆったりと過ごしている。壁には折り紙で作った季節感あふれる手作りの飾りや昔懐かしい映画女優の写真も貼られている。キッチン是对面方式で利用者は居心地よく過ごせるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファでの座る位置が一定しており、それが入居者の居場所にもなっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望に沿って配置されている為、安心して過ごせております。	居室にはクローゼットが備え付けられている。以前使用していた馴染みの家具や家族の写真などもあり、利用者それぞれ居心地のよい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレ等は十分なスペースを取り、更に廊下トイレ、浴室に手摺りを設置している。所内全てバリアフリーとなっており機能の低下を想定し設備してある。		

目標達成計画

事業所名 シルバーハウス 第2ケープ赤石

作成日：平成 29年 8月 18日

市町村受理日：平成 29年 8月 24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	事業所と地域とのつきあいが少ない。	自治会、町内会へのケーブル行事への参加呼びかけ。	自治会、町内会への呼びかけの継続、職員、利用者様の地域行事への積極的な参加。	1年
2	4	運営推進会議の開催が出来ていない。 参加者の確保。	開催回数を増やす。会議への参加呼びかけ。	毎月の開催に。(定例会議に)自治会、町内会への参加の呼びかけ、利用者様家族への呼びかけ、各職員の参加。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。